

日本人大学生における日本語の文章理解と語彙力の関係

田島 ますみ^A, 佐藤 尚子^B, 松下 達彦^C,
笹尾 洋介^D, 橋本 美香^E

1 はじめに

高等教育における日本人を対象とした日本語指導は「文章表現」などの科目において主に書くことに焦点が当てられて進んできたが、近年、読解力への関心が高まっている。大学生が文章を書けない原因として活字を読んでいないこと、すなわちインプットの少なさ、また読み取れていないこと、すなわち読解力の低さも指摘されてきている。日本語を母語とする大学生に日本語を読む指導をすることの必要性は大学によって分かれるところであろうが、読む力の育成が必要、あるいは有効な大学生は確実に存在すると考えられる。

外国語教育の場合、読むことの指導においてまず有効であろうと考えられるのは語彙知識を増やすことである。しかしながら、語彙力は読解において重要な役割を果たすと言われつつ、両者の関係について定量的に扱った研究は極めて乏しい。本研究では公務員試験の文章理解の問題に着目し、それを利用した読解テスト、および大学での学びに必要な語彙知識の測定のために開発した学術共通語彙テストを大学生に実施した。その結果から語彙力と読解力の関係について定量的な知見、また教育的示唆を得ることを目的とする。

2 調査方法

語彙テストと読解テストを2018年4月に2大学の1年生を主な対象者として実施した。1年生210名、2年生6名、4年生1名の計217名のテストスコアを分析対象とした。

語彙テストとして使用した、学術共通語彙テストVersion 2.2は、学術テキストで使用頻度の高い語彙から抽出したターゲット語の語義を3選択肢で問う形式である。学術共通語彙とは、学術的専門分野に関わら

ず、学術的なテキストにおいて「共通」して使用頻度が高い語彙であり、専門分野のみで使用頻度が高くなる、あるいは専門分野でしか使用されないような専門語彙とは異なるものである。松下(2011)の選定による「日本語学術共通語彙リスト」から頻度を考慮してターゲット語75語を抽出してテスト問題を作成した(田島ほか:2018)。

読解テストは、過去の公務員試験(大卒程度)で出題された文章理解の問題のうち、内容把握と要旨把握の問題を各3問、計6問選んで問題とした。いずれの文章も学術的な文章だが、専門的な知識がなくても読める論説文で、小説などの文芸作品の文章は含まれない。分量は547~984字である。正答を5選択肢の中から選ぶ。内容把握は出題文章に書かれている内容に合致している選択肢を選び、要旨把握は文章全体で何が言いたいのかを問う問題となる。

それぞれのテストの解答はマークシートに記入させ、実施時間は両テストとも30分とした。

3 結果と考察

2種類のテスト結果の基本統計量を表1に示す。学術共通語彙テストの平均は満点のおよそ84%、読解テストのほうは平均でおよそ65%の得点だった。読解テストの問題では、要旨把握の平均が内容把握の平均を若干下回っている。

表1 テスト結果基本統計量

	語彙 テスト	読解 テスト	要旨 把握	内容 把握
満点	75	6	3	3
平均点	62.83	3.92	1.91	2.01
標準偏差	14.05	1.62	0.93	1.01
最高点	75	6	3	3
最低点	22	0	0	0

A: 中央学院大学法学部
B: 千葉大学国際教養学部
C: 東京大学大学院総合文化研究科
D: 京都大学国際高等教育院
E: 川崎医科大学医学部

表2 語彙テストと読解テストの相関

	語彙 テスト	読解 テスト	要旨 把握
読解 テスト	.466**		
要旨 把握	.331**	.823**	
内容 把握	.446**	.850**	.400**

** : 相関係数は 1% 水準で有意

表2に二つのテストスコアの相関を示す。語彙テストと読解テストの合計点の相関は $r=.466$ で、語彙力と読解力に有意な相関があることが示唆された。係数の.466 という値をどのように考えるかは今後の調査が必要だが、一つの参考例として小学生の語彙力と読解力の調査結果がある(猪原ほか:2013)。小学生935名を対象としたもので、興味深いことに、1・2年生の語彙力と読解力の相関が $r=.79$ であり、3・4年生が.70、5・6年生が.66と下がっていく。今回の大学生の結果では、これらの値よりもさらに低い数値となった。学年が上がるにつれ読む文章の難易度が上がっていると考えられ、難易度が上がるにつれて語彙力と読解力の相関が弱まり、語彙力以外の要素が読解において果たす役割が増すのではないかと考えられる。さらに学術共通語彙は、一般語彙に比べ頻度を基準にした場合、大学生の語彙知識獲得状況としては一般語彙よりも進んでいない、すなわち高頻度の学術共通語彙であっても理解していない語彙があることが示唆されている(田島ほか:2018)。このことも今回の語彙テストと読解テストの相関係数が相対的に低い要因の一つと考えられる。

今回の結果でもう一つ注目すべき点は、読解テストの問題別のスコアと語彙テストとの相関である。要旨把握の問題と語彙テストの相関係数が $r=.331$ で、内容把握の問題との相関、 $r=.446$ を下回った。文章全体の要旨の把握よりも、文章の個々の内容の理解のほうが語彙力との相関があるという結果は論理的にも経験的にも首肯できるものである。部分的な内容の理解において語彙力の影響が大きいものに対し、全体として何を言いたいのかの理解に語彙力は同程度までは影響しないということである。極端な例を挙げれば、語彙が

すべて完全に理解できていても、文章全体のメッセージはとらえられない場合があるということになる。この結果は李・山方(2019)の調査結果とも符合する。そこでは日本人大学生の「包括的な読解ができていない傾向」が示され、「文章の全体像がとらえきれないまま、その時に読んでいる語や表現といった当該情報のみに注意を向けてしまい、他の様々な情報との有機的な関連づけができていない状況」が指摘された。本研究で示された、要旨把握問題の平均点が内容把握の問題よりも低くなること、語彙力と要旨把握問題との相対的な相関の弱さは、この指摘につながるものではないだろうか。文章全体の要旨を読み取るためには語彙力のほかにも関わってくる力やスキルが存在が推測される。

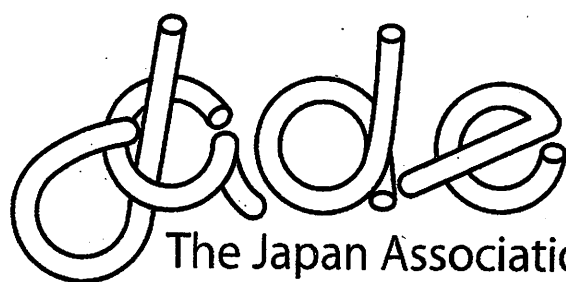
4 おわりに

以上、読解力と語彙力に一定の相関が認められたのと同時に、語彙力以外の力の影響も示唆された。今後、語彙テストの成績順にグループ分けを行い、グループ内での語彙力と読解力の関係について詳細に分析したうえで、大学生の読解力と語彙力についてさらなる知見を得ることを予定している。たとえば、読解力の向上のために語彙力を指導することが有効であるレベルは特定できるのかなどの研究課題に対して調査を進めていきたい。

本研究はJSPS 科研費 JP15K02631 の助成を受けた。

引用・参考文献

- 1) 松下達彦: 日本語の学術共通語彙(アカデミック・ワード)の抽出と妥当性の検証, 日本語教育学会春季大会予稿集, 2011, p.244-249.
- 2) 日本語学術共通語彙リスト Ver.1.01 (2011): <http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/list.html> (2019年11月8日参照)
- 3) 田島ますみ, 佐藤尚子, 橋本美香, 松下達彦, 笹尾洋介: 日本語学術共通語彙テストの開発, 中央学院大学人間・自然論叢, 2018, 45号, p.19-31.
- 4) 猪原敬介, 上田紋佳, 塩谷京子, 小山内秀和: 日本人小学生児童における読書量・語彙力・読解力の関係(1), 日本教育心理学会総会発表論文集, 2013, 55, p.143.
- 5) 李榮, 山方純子: 大学生による日本語読解の困難点(筆記再生文の質的分析から), 日本リメディアル教育学会第15回全国大会発表予稿集, 2019, p.96-97.



The Japan Association

for Developmental Education

日本リメディアル教育学会

第2回 授業実践フォーラム

第11回 九州・沖縄支部大会

発表予稿集

日時：2019年11月23日（土）

会場：沖縄産業支援センター